

中間期連結決算説明
2025年3月期（第42期）
Wacom Chapter 3

株式会社ワコム（東証プライム：6727）



目次

(スライドページと主な内容を記載)

- 3 決算説明会のポイント
- 4 中間期 (2024年4月-9月期) 連結決算概況
- 5-6 中間期 (2024年4月-9月期) 事業セグメント概況
- 7-10 中間期 (2024年4月-9月期) 連結損益計算書、連結B/S、連結C/F計算書等
- 11-18 2025年3月期 (42期) 連結業績予想の主なガイダンス、株主還元策
- 19-21 ブランド製品事業 事業構造変革プランの進捗
- 22-24 次期中期経営方針 Wacom Chapter 4 検討進捗アップデート
- 25-31 戦略方針を体現する事例

(IR補足資料)

- 32-36 中間期 (2024年4月-9月期) 連結財務サマリー、事業ハイライト他
- 37-43 (参考) 事業セグメント別損益、販管費の主な内訳等
- 44-47 2025年3月 (42期) 連結損益予想、事業セグメント別業績予想
- 48-50 本資料のお取り扱い上の注意点等

決算説明会のポイント

- 中間期 (2024年4月-9月期) 連結決算概況
 - **テクノロジーソリューション事業の成長が連結業績を牽引**
- ブランド製品事業 事業構造変革プランの進捗
 - **オペレーション費用の更なる最適化に向けた取り組み**
- 次期中期経営方針 Wacom Chapter 4 検討進捗アップデート
 - **最終発行までのマイルストーンと進行中の内容**



中間期（2024年4月-9月期）連結決算概況

- 連結売上高 **573億円**（前年同期比 3%増）
- 連結営業利益 **55億円**（前年同期比 123%増）
- 連結当期純利益 **35億円**（前年同期比 9%減）

キーポイント

- 連結売上高は、テクノロジーソリューション事業の増収により増加
- 連結営業利益は、テクノロジーソリューション事業の増益により増加
- 当期純利益は、営業外損益の為替差損（-7億円）の計上（前年同期は為替差益25億円の計上）等により減少

（注）当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益/中間/四半期純利益」に相当

中間期（2024年4月-9月期）事業セグメント概況 - 1

テクノロジーソリューション事業

● 売上高 **425億円**（前年同期比 10%増）

● セグメント利益 **93億円**（前年同期比 35%増）

- 売上高は、EMRテクノロジーがOEM提供先の需要増加から増収、AESテクノロジーは市場環境の変化の影響を受けて僅かに減収
- セグメント利益は、増収等により増益

中間期（2024年4月-9月期）事業セグメント概況 - 2

ブランド製品事業

- 売上高 **148億円**（前年同期比 13%減）
- セグメント損失 **11億円**（前年同期 損失20億円）
 - 売上高は、商品ポートフォリオのアップデートを進めるなか、プロ向けモデルがディスプレイ製品の新商品の貢献により増収、一方で、プロ向けモデル以外がディスプレイ製品の中低価格帯モデルへの需要減少等から減収
 - セグメント損失は、一時費用の減少や販管費の削減等により縮小

中間期（2024年4月-9月期）連結損益計算書

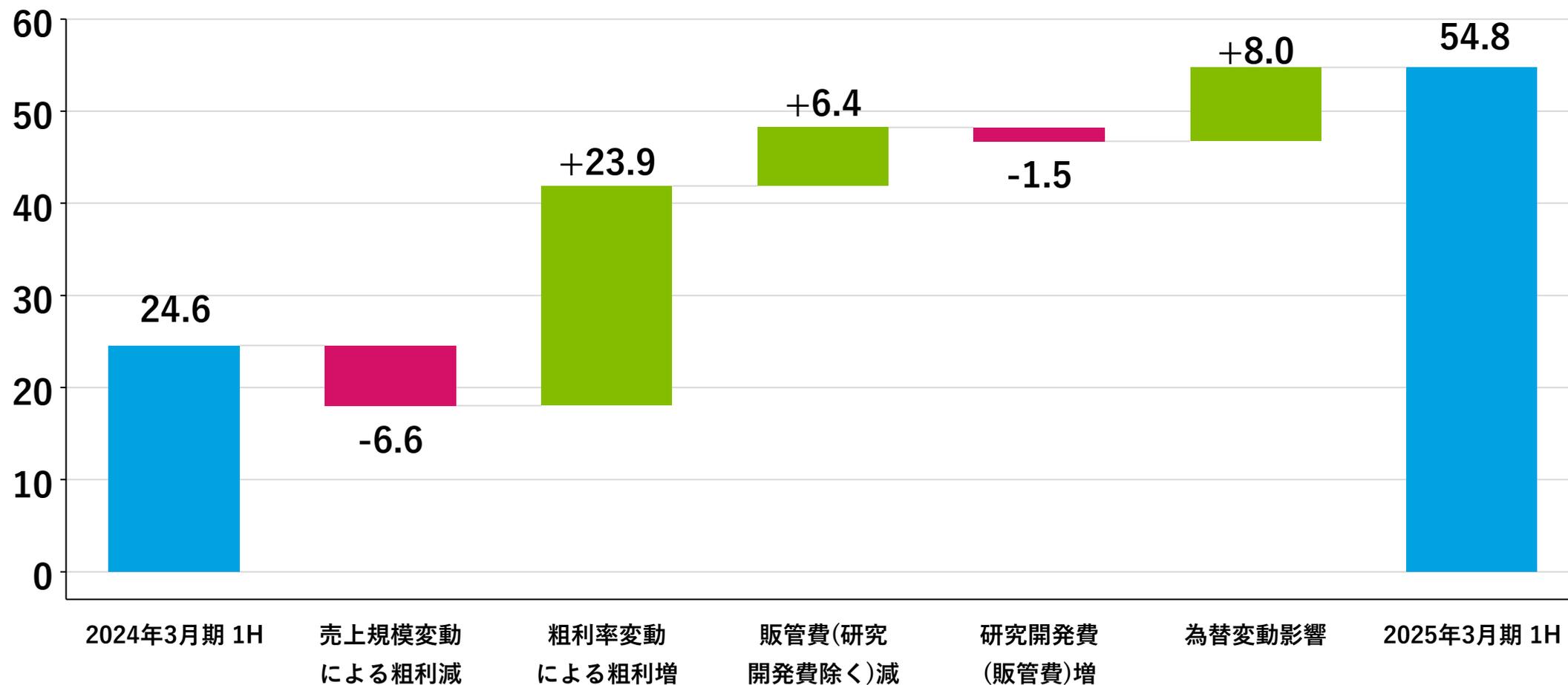
	41期	42期	対前年同期比較	
	23年4-9月期	24年4-9月期	増減額	増減率
売上高	55,591	57,315	1,724	3.1%
内、為替影響額(益+損-)			+3,864	
売上総利益（粗利）	17,011	20,102	3,091	18.2%
売上総利益率	30.6%	35.1%		
販管費	14,554	14,626	72	0.5%
内、為替影響額(益+損-)			-557	
販管费率	26.2%	25.5%		
営業利益	2,457	5,475	3,018	122.9%
内、為替影響額(益+損-)			+801	
営業利益率	4.4%	9.6%		
経常利益	4,990	4,785	-205	-4.1%
当期純利益	3,804	3,470	-334	-8.8%

(単位：百万円)

(注) 当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益/中間/四半期純利益」に相当

(参考) 連結営業利益の主な変動要因

(単位：億円)



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2024年 3月末	2024年 9月末	増減額
流動資産	64,680	62,848	-1,832
固定資産	14,940	14,619	-321
資産合計	79,620	77,466	-2,154
流動負債	33,899	34,705	806
固定負債	9,753	9,331	-422
負債合計	43,651	44,036	385
純資産合計	35,968	33,431	-2,537
負債純資産合計	79,620	77,466	-2,154
自己資本比率	45.2%	43.2%	-2.0pts

増減の主な内容

資産

(単位：億円)

- ・ 現金及び預金の減少 -45
 - ・ 棚卸資産の増加*1 26
- *1 主にブランド製品事業の一時的な輸送在庫の増加

負債

- ・ 仕入債務の増加 41
 - ・ その他流動負債の減少*2 -34
- *2 主に未払金の減少

純資産

- ・ 自己株式の取得 -30
- ・ 剰余金の配当 -29
- ・ 当期純利益の計上 35

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	41期	42期	対前年同期 比較
	23年4-9月期	24年4-9月期	増減額
営業活動	5,952	3,218	-2,734
投資活動	-1,067	-412	655
財務活動	488	-6,323	-6,811
現金に係る換算 差額	2,318	-940	-3,258
現金増減額	7,692	-4,459	-12,151
現金期首残高	19,980	31,661	11,681
現金期末残高	27,672	27,202	-470

2024年4-9月期の主な活動内容

営業活動

(単位：億円)

- ・ 税金等調整前当期純利益 47
- ・ 仕入債務の増加 42
- ・ 減価償却費 11
- ・ その他流動負債の減少 -36
- ・ 棚卸資産の増加 -29

投資活動

- ・ 固定資産の取得 -4

財務活動

- ・ 自己株式の取得 -30
- ・ 配当金の支払 -29

(注) 当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益/中間/四半期純利益」に相当

2025年3月期（42期）連結業績予想 Wacom Chapter 3

2025年3月期（42期）連結業績予想の主なガイダンス

- 連結売上高 **1,200億円**（前年同期比 1%増） **変更無し**
- 連結営業利益 **85億円**（前年同期比 20%増） **変更無し**
- 連結当期純利益 **62億円**（前年同期比 36%増） **変更無し**

➤ 通期の連結業績予想は、現時点で想定可能な事業セグメントごとの業況を勘案して策定

*想定為替レート（1USドル=145円、1ユーロ=155円）及び為替感応度予想はスライド# 45を参照

（注）当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」に相当

2025年3月期（42期）連結業績予想の主なガイダンス

テクノロジーソリューション事業

- 売上高 **850億円**（前年同期比 0%増） **変更無し**
 - セグメント利益 **160億円**（前年同期比 3%減） **変更無し**
- 通期の売上高は、前年同期程度水準を想定
 - 通期のセグメント利益は、上記を前提に、将来に向けた積極的な研究開発投資等も勘案し、前年同期程度水準を想定

2025年3月期（42期）連結業績予想の主なガイダンス

ブランド製品事業

- 売上高 **350億円**（前年同期比 4%増） **変更無し**
 - セグメント損失 **20億円**（前年同期 損失45億円） **変更無し**
- 通期の売上高は、アップデートされた商品ポートフォリオ群の市場浸透を図るも、市場環境の変化等を勘案し、前年同期程度の水準を想定
- 通期のセグメント損失は、現在認識可能な構造改革効果等を前提にセグメント損失縮小を見込んだ想定

2025年3月期（42期）研究開発費、投資計画予想

研究開発費

80億円（前年同期比 4%増） **変更無し**

- 主な内容：テクノロジー・リーダーシップ推進に向けた新製品開発、次世代技術開発等

資本的支出

20億円（前年同期比 8%減） **変更無し**

- 主な内容：ブランド製品事業及びテクノロジーソリューション事業の製品量産金型等

減価償却費

15億円（前年同期比 17%減） **変更無し**

- 主な内容：製品量産金型等の減価償却費

（注）上記の実績と予想にはリース資産に関わる設備投資額及び減価償却費を含まず

2025年3月期（42期）株主還元策

基本方針

- 将来の事業展開と財務体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続と機動的な自己株式の取得を基本方針とする

1 株当たり配当予想 **変更無し**

➤ **期末配当金 20.00円**（前期実績 20.00円）

配当性向 46.9%（前期実績 67.5%）

配当方針については、適正な財務の健全性を確保することを前提にしつつ、連結ベースの配当性向が目安である30%程度を上回る場合でも、原則安定的な1株当たりの配当額を維持し、1株当たり配当額の中長期的な増加を通じた利益還元に努める

2025年3月期（42期）株主還元策

自己株式の取得（方針）

- 「Wacom Chapter 3」において株主還元は重要な経営課題として認識。投資機会、資本効率等を総合的に勘案したうえで株主還元を実施
- 財務の健全性を考慮した上で、「Wacom Chapter 3」対象期間において**総額200億円を上限**とする自己株式取得を実施する方針

➤ 自己株式の取得

- 2024年10月30日付決議*
 - 取得総額（株数）：**20億円上限**（400万株上限 発行済株式総数（自己株式を除く）に対する2.83%）
 - 取得期間：2024年10月31日～2025年1月20日

（参考）「Wacom Chapter 3」対象期間での自己株式取得の累計実績

- 2024年9月30日時点で**総額155億円**（2,137万株）の取得を実施済み*

2025年3月期（42期）株主還元策

自己株式の消却

- 現下の自己株式の用途、財務状況等を総合的に勘案した上で、自己株式の消却を実施

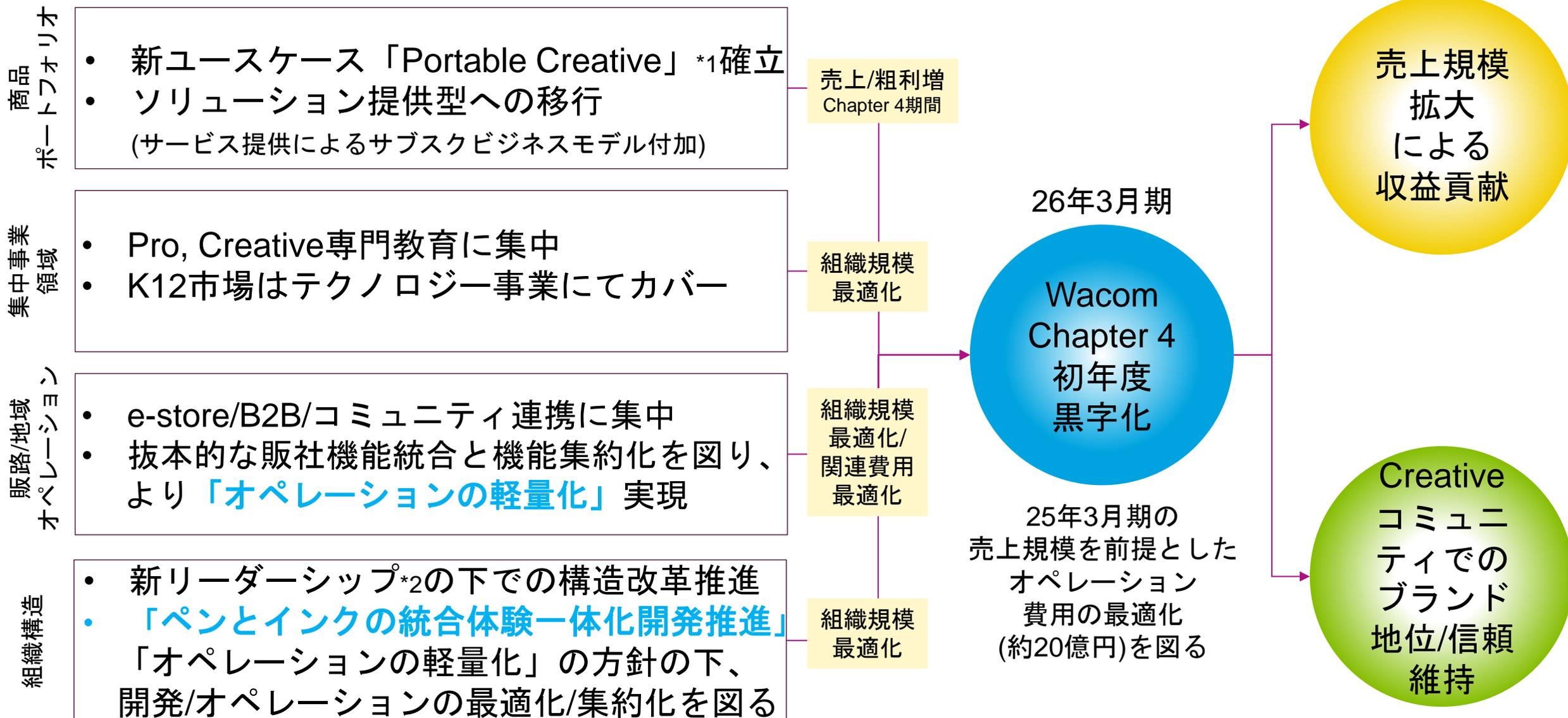
➤ 自己株式の消却

- 2024年5月9日付決議*
 - 消却株式総数: **600万株**（消却前の発行済株式総数に対する割合3.95%）
 - 消却実施日: 2024年5月16日

ブランド製品事業 事業構造変革プランの進捗

ブランド製品事業 事業構造改革プラン

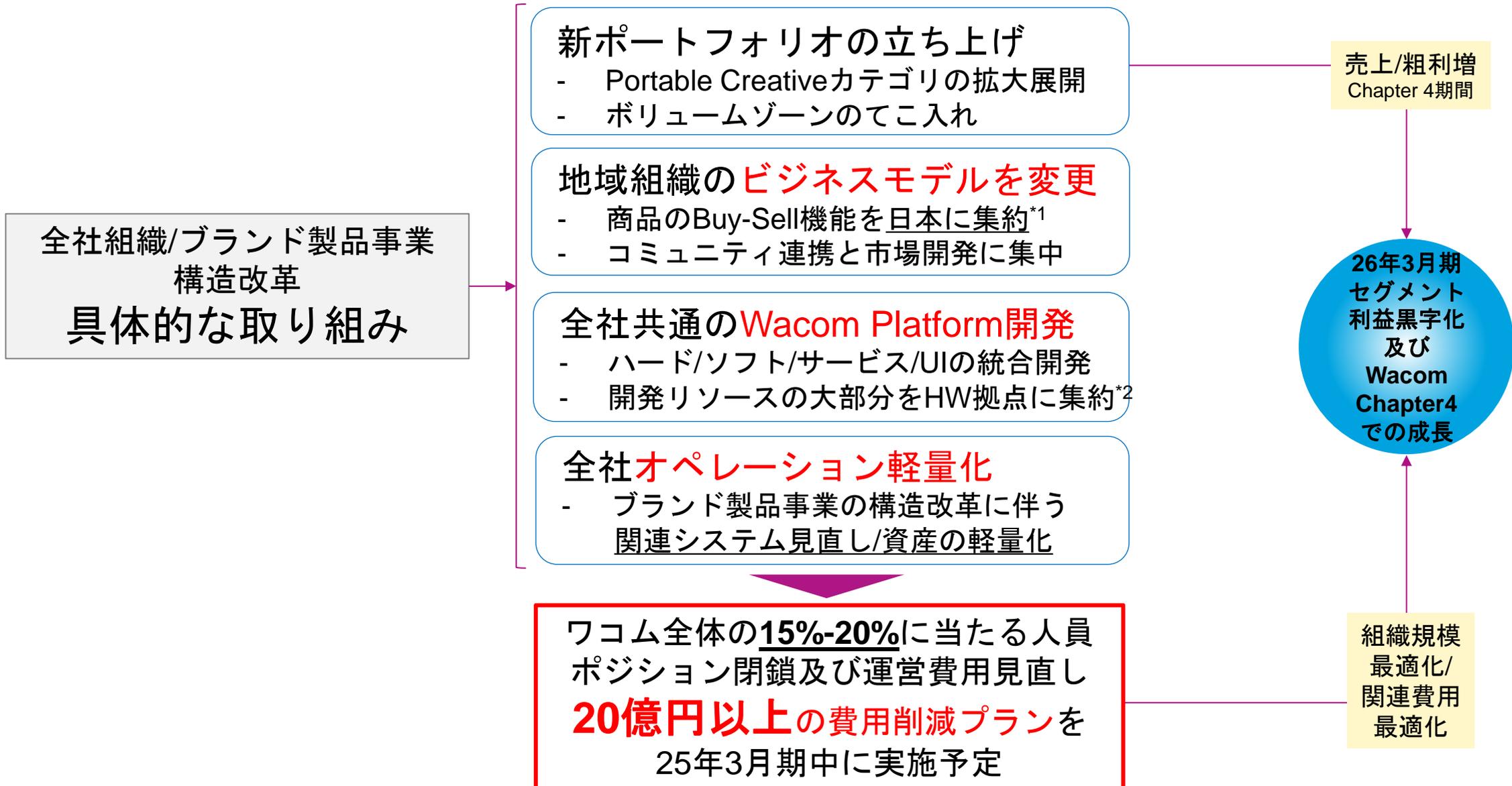
27年3月期以降



*1: 持運び可能なdrawing特化体験

*2: 4/1付けでBUリーダーシップとオペレーション体制を一新

Wacom Chapter 4に向かったの全社組織及びブランド製品事業構造改革



次期中期経営方針

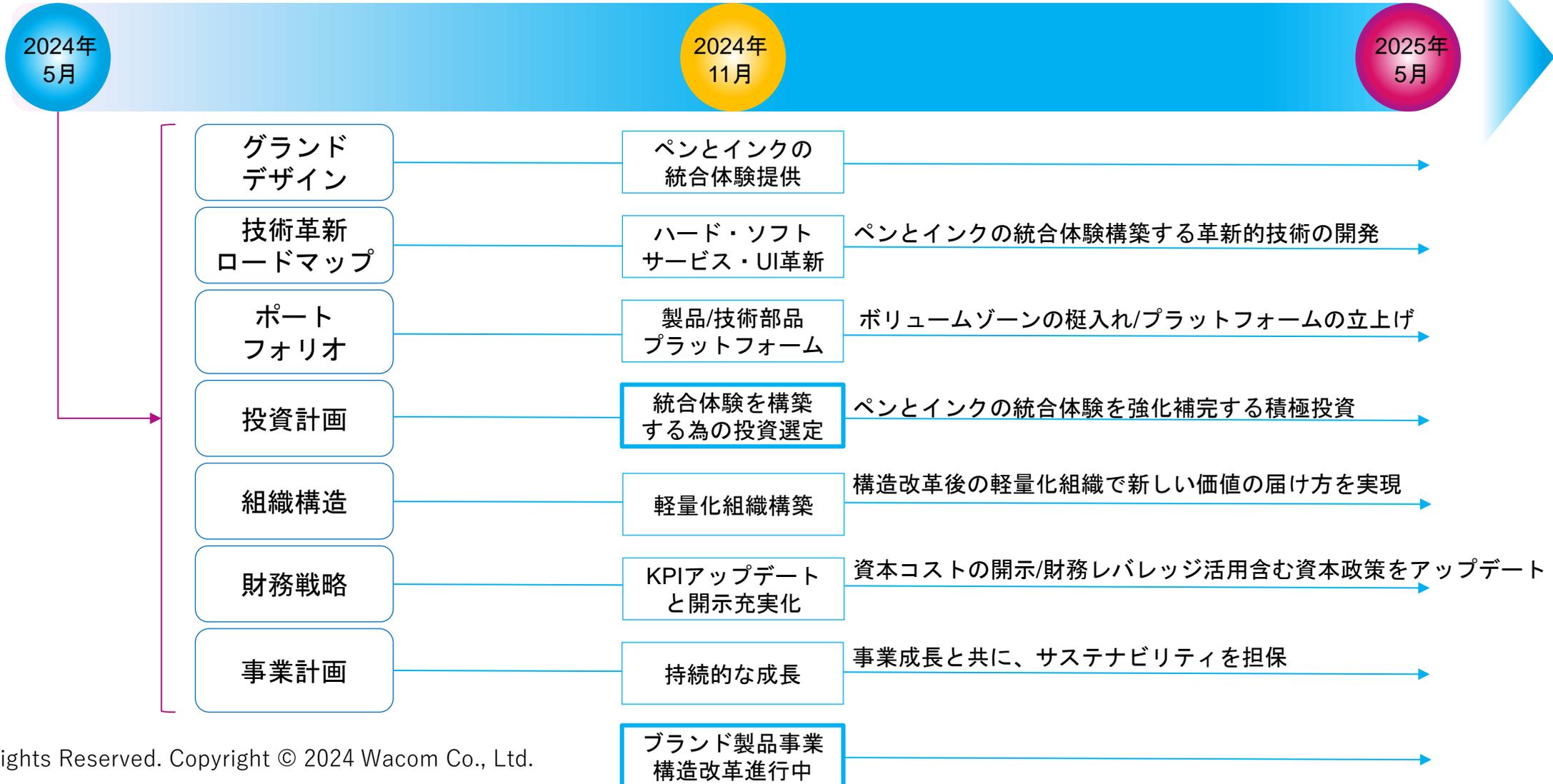
Wacom Chapter 4 検討進捗アップデート

Wacom Chapter 4 最終発行までのマイルストーン

Wacom Chapter 4
方向性提示

検討進捗のアップデート
進行中の内容

Wacom Chapter 4
発表



Wacom Chapter 4 の提供価値

Wacom Chapter 4

「ペンとインクの統合体験」
を提供



制作ワークフローや学びのユースケースに対して、ペンとインクに関する統合体験を提供

ペンとインクの統合体験
を新しい価値として提供
する為の積極投資検討中
(資本提携/技術獲得含む)

- コア技術獲得
- 開発リソース強化
- バリューチェーン強化
- 市場開発

戦略方針を体現する事例 (2024年10月時点)

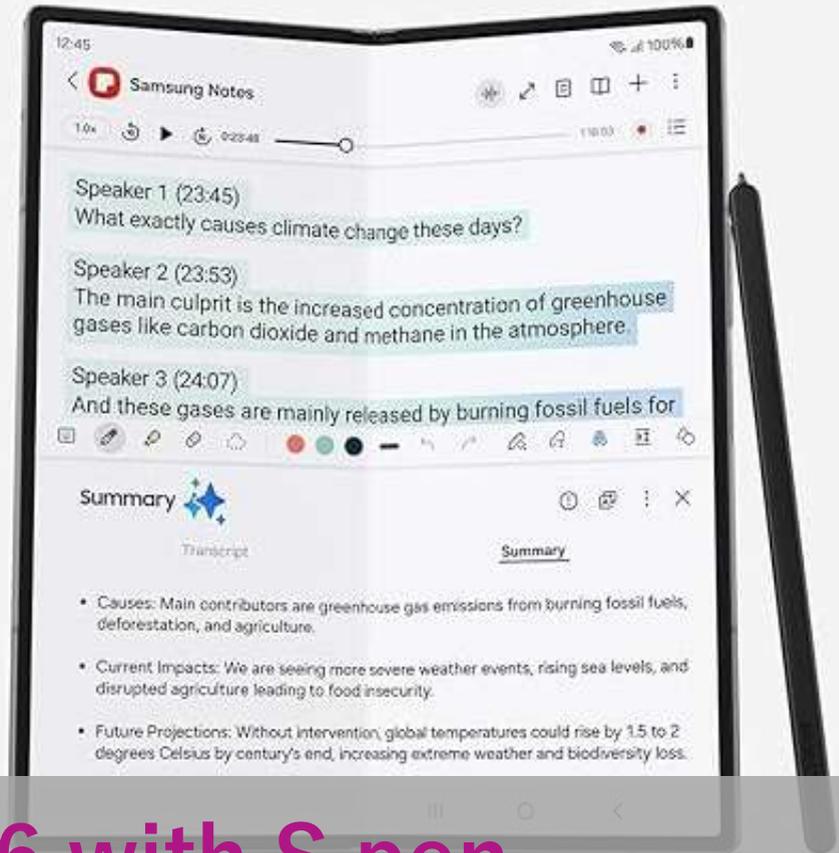
ワコム ディスプレイ製品史上、
最薄・最軽量を実現



新しいユースケース「Portable Creative」
有機ELペンディスプレイ Wacom Movink 13を発売

Note Assist with Galaxy AI ✨

Summarize in the blink of an AI



Samsung Galaxy Z Fold6 with S pen

新製品で新しい体験“Note Assist”や“Circle to Search”をS pen技術で支える

YOGA Book 9i

AI 双屏翻转本

酷睿Ultra 给你一颗AI的芯



Lenovo YOGA Book 9i with AES pen

AI PCの新たな体験をWacom AES penで支える



再生プラスチック使用
包装材への環境配慮
小型化/軽量化。
環境配慮した印刷



APPROVED NEAR-TERM SCIENCE-BASED TARGETS

The Science Based Targets initiative has validated that the science-based greenhouse gas emissions reductions target(s) submitted by Wacom Co., Ltd. conform with the SBTi Criteria and Recommendations (Criteria version 5.2).

SBTi has classified your company's scope 1 and 2 target ambition as in line with a 1.5°C trajectory.

The official near-term science-based target language:

Wacom Co., Ltd. commits to reduce absolute scope 1 and 2 GHG emissions 80% by FY2030 from a FY2021 base year. Wacom Co., Ltd. also commits to reduce absolute scope 3 GHG emissions from purchased goods and services 25% within the same timeframe.



信頼性、透明性の高いESG/環境情報データ開示への取り組み

SOCOTECよりGHG排出量の第三者保証認証取得、SBTiよりSBT目標認定取得



2024年11月15日(金)15:00 (受付開始14:30)
2024年11月16日(土)13:00 (受付開始12:30)
東京・新宿住友ビル 三角広場



Connected Ink 2024 コミュニティイベント

参加登録は
こちらから



クリエイティブ、学び、技術革新について、多様なパートナーが集いプログラムを展開

コネクテッド・ インク東京2024

CEO井出との IRガイドツアー



※参加無料イベント

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ワコム IRチーム

(お問い合わせ先) インベスター・リレーションズ TEL: 03-5337-6502

All Rights Reserved. Copyright © 2024 Wacom Co., Ltd.

IRガイドツアー開催を決定

参加お申込方法：

以下URLのお申込みフォームより必要事項をご入力の上送信ください。

お申込みフォーム: <https://forms.office.com/e/XFZQH70r96>



※定員は各回10名程度を予定。応募者多数の場合には先着順とさせていただきます。

開催概要：

日時

- ① 2024年11月15日 (金) 13:00～15:00 (約2時間)
- ② 2024年11月16日 (土) 11:30～13:00 (約1時間30分)

※内容はスケジュールの都合により各ツアーで多少異なります。

※イベント会場内ではフリードリンク/フードのサービス、お絵描き体験などもございます。

場所

新宿住友ビル三角広場 (東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル)

<https://www.sumitomo-sankakuhiroba.jp/access/>

ツアーの主な内容

パートナーの皆様とワコムで共創する製品/サービスのご紹介やツアー参加者限定のテクノロジー体験会なども予定、当社の財務諸表だけではお伝え出来ない情報をお届けします。

参加対象

ワコム株主、個人投資家の皆様 (機関投資家の皆様もよろしければお申し込みください)

IR補足資料

中間期（2024年4月-9月期）連結決算

中間期（2024年4月-9月期）連結財務サマリー

経営成績	当期実績	前年同期比
売上高	57,315百万円	+3.1%
営業利益	5,475百万円	+122.9%
経常利益	4,785百万円	-4.1%
当期純利益	3,470百万円	-8.8%

財務指標	当期実績	前年同期比
1株当たり純利益	24.22円	-0.15円
1株当たり純資産	236.69円	-29.79円

(参考)

平均為替レート	当期実績	前年同期比
1 USドル	152.30円	+7.8% (円安)
1 ユーロ	165.46円	+7.8% (円安)
1 中国元	21.15円	+6.8% (円安)

(注) 当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益/中間期/四半期純利益」に相当

事業ハイライト -売上高-

テクノロジーソリューション事業 425億円 前年同期比 +10%

・ AESテクノロジーソリューション 125億円 前年同期比 -0%

- 市場環境の変化の影響を受けて僅かに減収

・ EMRテクノロジーソリューション 300億円 前年同期比 +16%

- OEM顧客の需要が増加したことから増収

Lenovo



FUJITSU



dynabook

SAMSUNG



PILOT



STAEDTLER



LAMY

Design. Made in Germany.



CLIP STUDIO
PAINT

事業ハイライト -売上高-

ブランド製品事業 148億円 前年同期比 -13%

・クリエイティブソリューション 127億円 前年同期比 -15%

(内数) ディスプレイ製品	77億円	同 -17%
ペンタブレット製品	49億円	同 -12%

- **ディスプレイ製品:** プロ向けモデルは新商品 (Wacom Cintiq Proシリーズ、Wacom Movink 13) の貢献等により増収の一方で、プロ向けモデル以外は需要減少等により中価格帯モデルが減収、低価格帯モデルも大幅減収
- **ペンタブレット製品:** プロ向けモデルは僅かに減収。プロ向けモデル以外は低価格帯モデルが大幅増収の一方で、中価格帯モデルが需要減少等により大幅減収



事業ハイライト -売上高-

ブランド製品事業

・ **ビジネスソリューション 22億円 前年同期比 -1%**

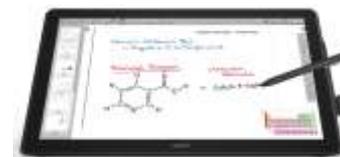
➤ 流動的な市況の変化や案件進捗の動向の影響等があるなか僅かに減収



STU-540



DTU-1141B



**DTK-2451
DTH-2452**

中間期（2024年4月-9月期）事業セグメント別損益

（単位：百万円）

	41期	42期	対前年同期比較	
	23年4-9月期	24年4-9月期	増減額	増減率
売上高 計	55,591	57,315	1,724	3.1%
テクノロジーソリューション事業	38,513	42,491	3,978	10.3%
内、為替影響額(益+損-)			3,024	
ブランド製品事業	17,078	14,824	-2,254	-13.2%
内、為替影響額(益+損-)			840	
営業利益 計	2,457	5,475	3,018	122.9%
テクノロジーソリューション事業	6,915	9,325	2,410	34.8%
内、為替影響額(益+損-)			968	
ブランド製品事業	-2,017	-1,106	911	—
内、為替影響額(益+損-)			-63	
調整額(コーポレート他)	-2,442	-2,743	-301	—
内、為替影響額(益+損-)			-104	
営業利益率	4.4%	9.6%		5.2pts

(参考) 販売費及び一般管理費の主な内訳

(単位：百万円)

	41期	42期	対前年同期比較	
	23年4-9月期	24年4-9月期	増減額	増減率
人件費	5,575	5,728	153	2.7%
研究開発費	3,641	3,792	151	4.1%
広告宣伝・販促費	876	599	-277	-31.7%
運賃・荷造費	644	615	-29	-4.5%
外注費	718	680	-38	-5.3%
減価償却費	228	223	-5	-2.5%
その他	2,872	2,991	119	4.1%
販管費合計	14,554	14,626	72	0.5%
売上高販管費率	26.2%	25.5%		-0.7pts

(参考) 連結営業利益の主な変動要因

- 為替影響を除く、営業利益の主な変動要因 (前年同期比)

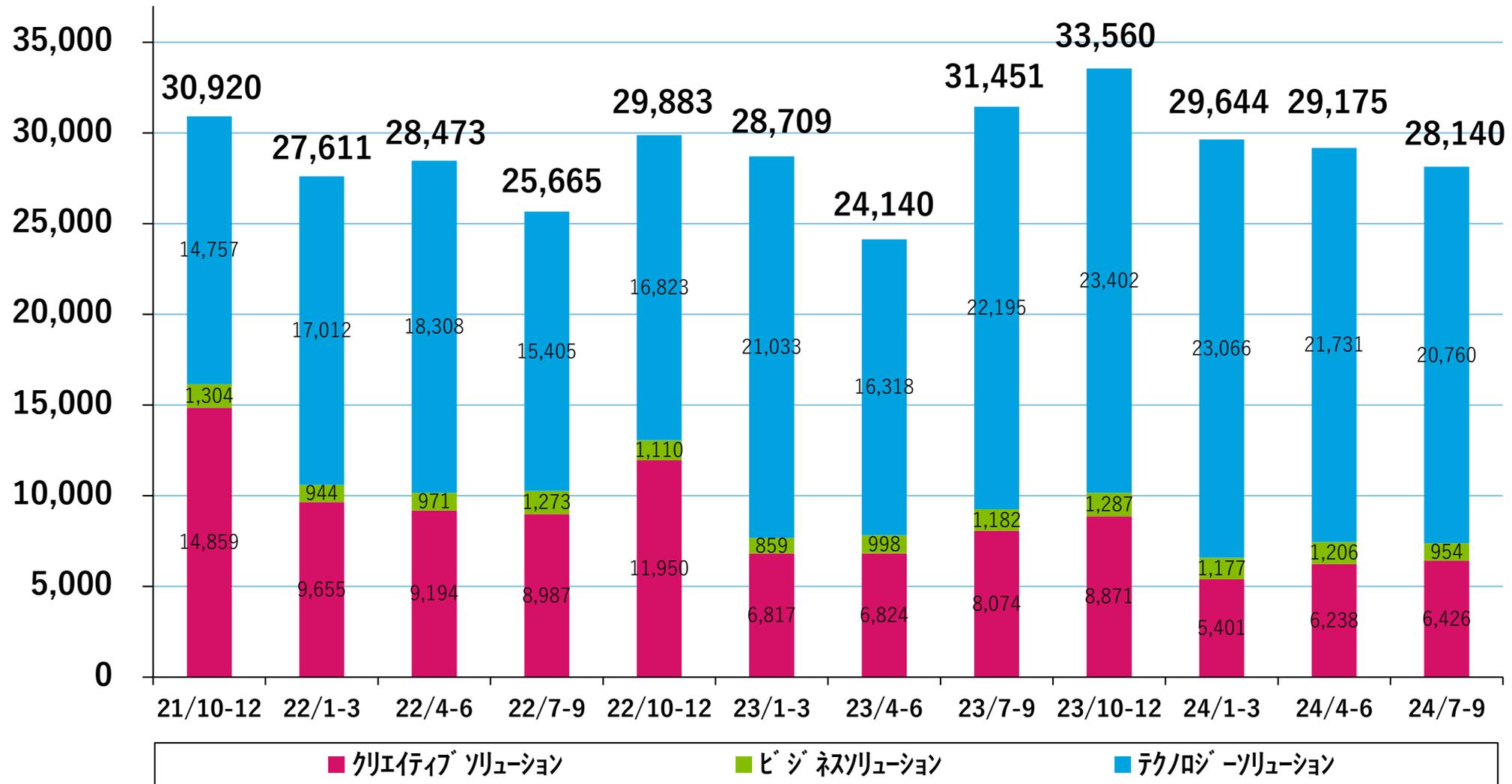
- (1) テクノロジーソリューション事業: 一時費用減少や増収による粗利増等 +14.5億円
- (2) ブランド製品事業: 一時費用減少による粗利増及び販管費減等 +9.7億円
- (3) コーポレート部門: 販管費増 -2.0億円

- 為替影響額 (前年同期比)

通貨	為替レート変動	売上高	営業利益
1 USドル	10.99円 円安	+34.0億円	+6.4億円
1 ユーロ	11.95円 円安	+2.8億円	+1.2億円
アジア通貨 計 (内数: 中国元)	(1.35円 円安)	+1.8億円 (+0.9億円)	+0.4億円 (+0.1億円)
計		+38.6億円	+8.0億円

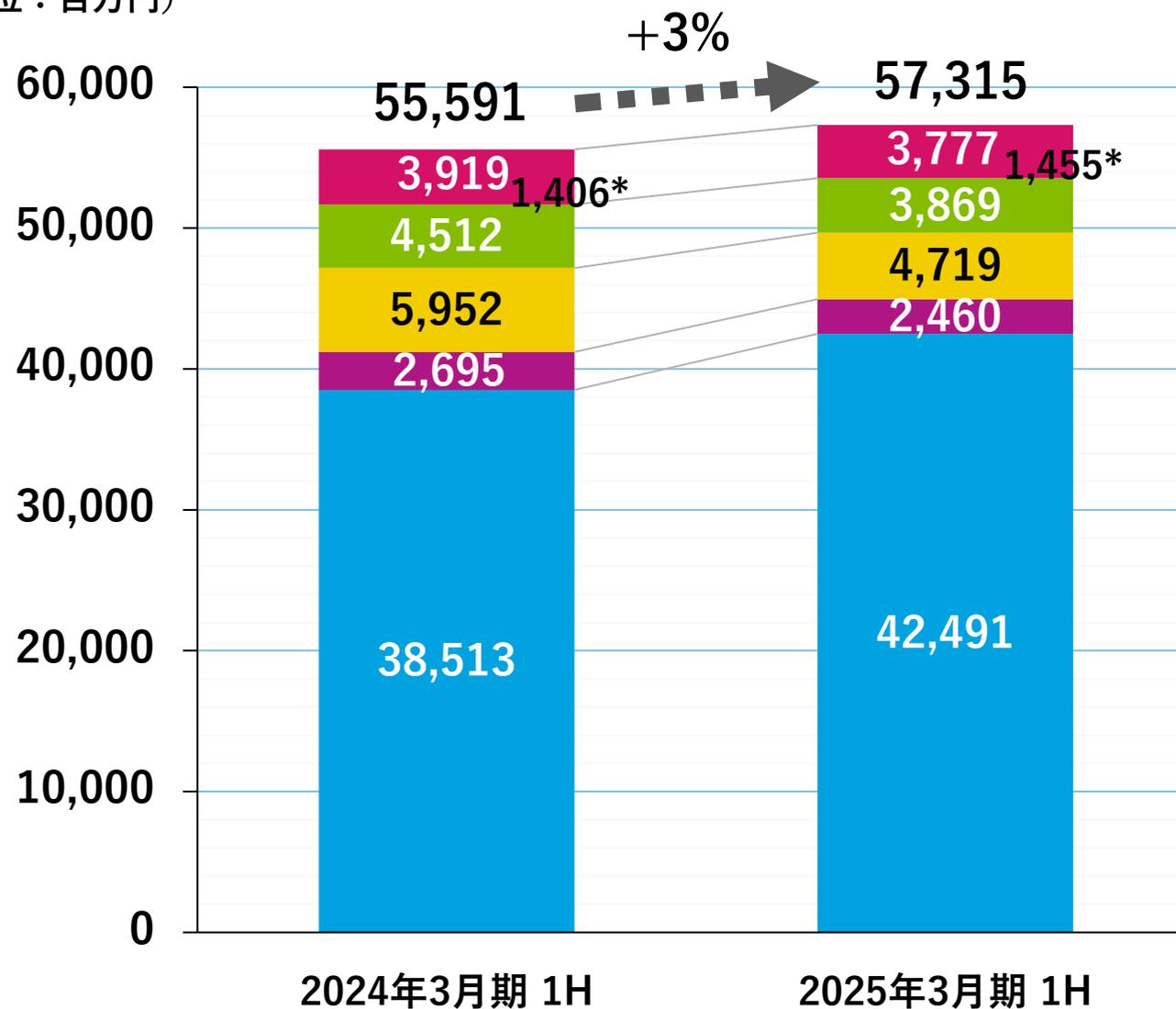
(参考) 四半期売上高推移

(単位：百万円)

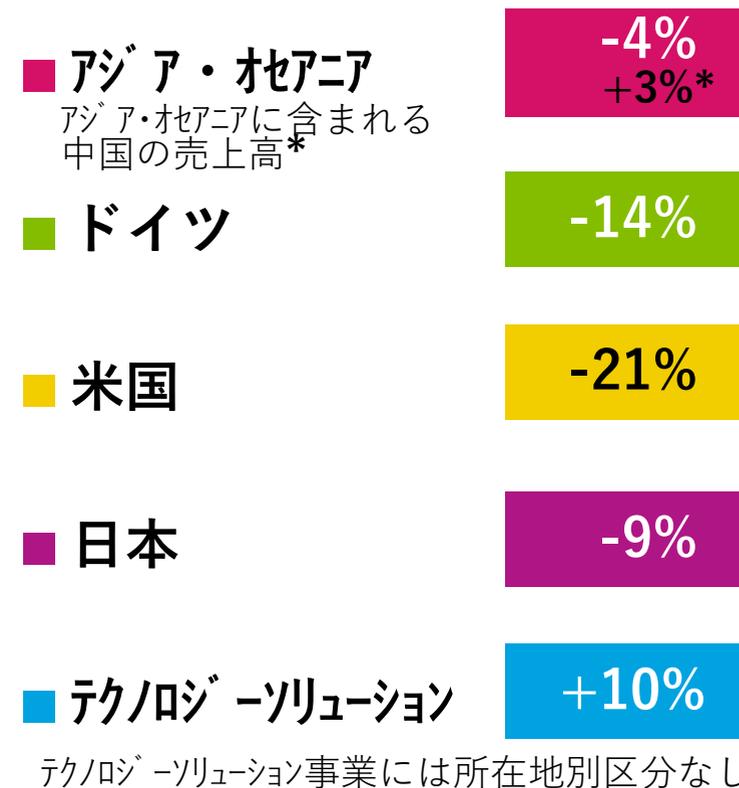


(参考) 現地法人所在地別売上高 前年同期比

(単位：百万円)



円貨ベース
増減率



(参考) ブランド製品事業 現地通貨ベース売上高増減率

地域	通貨	前年同期比 増減率	
日本	日本円	-9%	-12%
米国	米ドル	-26%	-24%
欧州	ユーロ	-20%	-30%
中国	中国元	-3%	-2%
韓国	韓国ウォン	-18%	-17%
豪州	豪ドル	-17%	-15%
シンガポール	米ドル	+3%	-12%
香港	米ドル	-14%	+14%
台湾	台湾ドル	+16%	+15%
インド	インドルピー	-20%	-4%

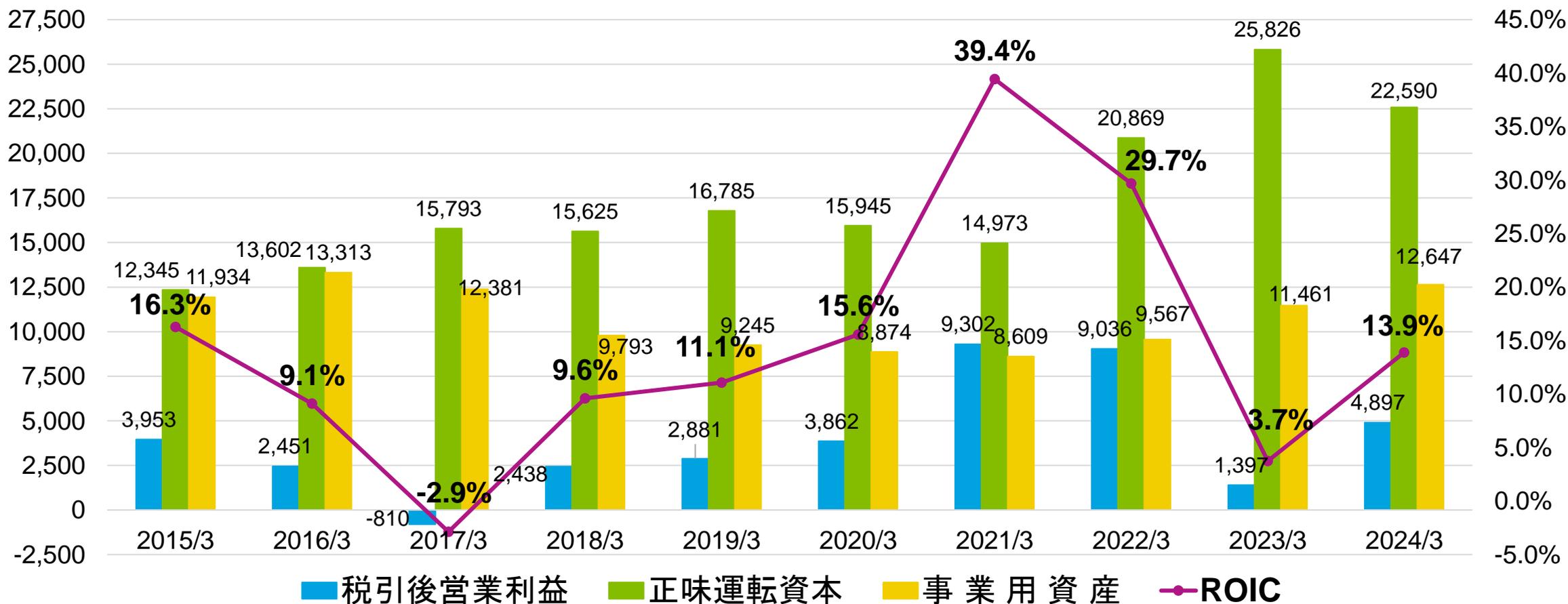
(注) 前年同期比の枠内はブランド製品事業に含まれるクリエイティブソリューションの増減率を示す

(参考) ROIC (投下資本利益率)の年度推移

ROIC = 税引後営業利益 / (正味運転資本 + 事業用資産*)の期首と期末平均

*事業用資産：有形固定資産 + 無形固定資産 + 他資産(うち事業用と定義するもの)

(単位：百万円)



2025年3月期（42期）連結業績予想 補足資料

2025年3月期（42期）連結業績予想の前提

2024年10月以降想定為替レート

1 USドル = 145.0円

変更無し

1 ユーロ = 155.0円

変更無し

1 中国元 = 20.0円

変更無し

(概算) 為替感応度予想・通期12ヶ月分

変更無し

(単位：百万円)

感応度の単位	1円（中国元*は0.1円）当たり円高の場合 各通貨とも、円安の場合は影響額の符合が逆					
	2025年3月期予想			(参考) 2024年3月期実績		
通貨	USドル	ユーロ	中国元*	USドル	ユーロ	中国元*
売上高	-670	-70	-10*	-660	-70	-10*
営業利益	-90	-40	-0*	-60	-30	-0*

2025年3月期（42期）連結損益予想 対前年同期比較

（単位：百万円）

	41期（実績）		42期（予想）		対前年同期比較	
	2024年3月期		2025年3月期		増減額	増減率
売上高	118,795		120,000		1,205	1.0%
営業利益	7,058	5.9%	8,500	7.1%	1,442	20.4%
経常利益	9,853	8.3%	8,500	7.1%	-1,353	-13.7%
当期純利益	4,562	3.8%	6,200	5.2%	1,638	35.9%
ROE	11.9%		16.5%			4.6pts

（注）当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」に相当

2025年3月期（42期）事業セグメント別業績予想 対前年同期比較

（単位：百万円）

	41期（実績）	42期（予想）	対前年同期比較	
	2024年3月期	2025年3月期	増減額	増減率
売上高（内訳）				
テクノロジーソリューション事業	84,981	85,000	19	0.0%
ブランド製品事業	33,814	35,000	1,186	3.5%
セグメント利益（内訳）				
テクノロジーソリューション事業	16,481	16,000	-481	-2.9%
ブランド製品事業	-4,520	-2,000	2,520	—
調整額（コーポレート他）	-4,902	-5,500	-598	—

IR情報ウェブサイトご案内 <https://investors.wacom.com/ja-jp/>



DISCOVER 製品 法人のお客様 教育 サポート ワコムストア

ワコムについて： テクノロジー 事業内容 未来 **IR情報** ニュース 採用情報 社会への取り組み 環境活動

最新プレゼンテーション



2024年7月29日
(月曜日)

2025年3月期第1四半
期決算



2024年6月26日
(水曜日)

事業説明会「ワコムの
新しい成長エンジンに



2024年6月26日
(水曜日)

第41回定時株主総会



2024年5月9日
(木曜日)

2024年3月期決算説明
会



2024年3月16日
(土曜日)

個人投資家向けオンラ
イン会社説明会（大和



(本レポートは、当社の見解を直接述
べるものではなく、当社の依頼に基
づき株式会社フィスコならびにアス
トリス・アドバイザー・ジャパン株
会社の担当アナリストが 当社を取材し、
その独自の分析に基づき執筆したも
のとなります)

IR情報発信の強化、ESG情報の充実を推進中

アナリスト企業調査レポート、最新IR説明会動画、IRメルマガ登録など掲載





Meaningful Growth 意味深い成長のために

- 経済的な成長だけでなく、多面的な成長を目指す
- 人間と社会にとって意味深い成長を模索する。
- 長い時間をかけて意味深い成長を遂げていく「成長の旅路」を通じて、社会における責務を果たす

本資料のお取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展などにより変動する事があります。従いまして、実際の業績などが本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

株式会社ワコム
インベスター・リレーションズ

〒160-6131 東京都新宿区西新宿8丁目17番1号 住友不動産新宿グランドタワー31階
<https://investors.wacom.com/ja-jp/>

本資料に記載の会社名、製品名などの固有名詞は各所有者の商標あるいは登録商標です。



質疑応答（要旨）

（質問）ブランド製品事業について、2024年7～9月期の3ヵ月間で見ても売上減少が続いているが、低調な販売が続いている背景や、市況の底打ちがいつごろになりそうかについて教えてほしい。

（回答）ブランド製品事業の売上減少の状況について、トレンドとしては残念ながらまだ底打ちにはなっていない。今年5月の2024年3月期決算説明会でご説明した通り、ブランド製品事業を取り巻く市場の構造変化が続いており、iPadやApple Pencilといった代替テクノロジー商品との競合が原因。また、エントリーモデルの市場領域ではかなり低価格化が進み、ポートフォリオとのマッチングも難しくなっている。このため、低調な販売が7～9月も続いている。一方、プロ向けの製品については、制作スタジオで使われるプロユーザーやフリーランスのクリエイターによる需要があり、まさにこの私が使っている新カテゴリーの「Wacom Movink13」を中心として、前年比で見ても上昇傾向にあるが、全体的にはまだ低調な状況が続いている。この底打ち感を予測するのは難しい部分があるが、10月～12月、1～3月と、この新カテゴリーを中心に様々な施策を試み、注視していく。

（質問）テクノロジーソリューション事業のセグメント利益率が上がっているが、どのような理由があるのか、足下の好調の持続性についてはどのように見ているか。

（回答）テクノロジーソリューション事業の状況について、お客様の個々のプロジェクトについて語ることはできないが、EMR（電磁誘導方式）の需要が伸びており、AES（静電容量方式）については僅かながら前年を割る状況。粗利率については、テクノロジーミックスやモデルミックスも含めポジティブな結果を得ている。ただし、この持続性については、お客様やその先のユーザートレンドに左右される部分が大きく、見通しが難しい。ただ、何か大きな地殻変動的な変化が起きているわけではないが、PC市場全体が前年割れしているようなトレンドもあり、下期に向けては慎重な見方をしている。

（質問）人員ポジション15～20%の人員削減に伴う一時的な費用についての考え方を教えてほしい。今期下期に特別損失の計上が発生する可能性があると考えべきか。

（回答）構造改革に伴う一時的な費用として、今期下期に特別損失として計上する可能性がある。但し、具体的な影響額については現在算定中であり、現時点の2025年3月期の連結業績予想の数値には反映されていない。影響額が判明次第、業績予想の修正も含め、適切なタイミングで開示する。

（質問）ブランド製品事業でボリュームゾーンで売り負けないようにしたいとのコメントがあったが、低価格で攻めてくる競合他社に対してどのように挑んでいくのか。

（回答）価格志向ではなく、アプリケーションやサービス、ユーザーアフターサービスを含めた全体のユーザー体験で差別化を図っていくという方針は変わっていない。市場全体として、価格のレンジが低価格化しているのは事実なので、低価格で大きなボリュームが出ている領域でも市場の価格

感に合わせて体験による差別化を図れるよう、若干ポートフォリオのアップデートも図りながら取り組んでいく。

(質問) 全社共通の Wacom プラットフォームの導入によってどのような変化が期待されるのか、もう少しご解説をいただきたい。これはブランド製品事業だけでなく、テクノロジーソリューション事業とも関係してくるものなのか。

(回答) 全社共通の Wacom プラットフォームについて、現時点では詳しく事例等をお話できないが、ブランド製品事業、テクノロジーソリューション事業に関わらず、共通の価値となる統合体験を、ハードウェア、ソフトウェア、UI (ユーザーインターフェース) がしっかり統合された全社共通プラットフォームを通じて、①ブランド製品事業のお客様にお届けしたり、②テクノロジーモジュールを切り出してテクノロジーソリューション事業のお客様にお届けしたり、もしくは、③ブランド製品事業、テクノロジーソリューション事業両方ではまだカバーできていない、ペンとデジタルインクのユースケースに関する新しいお客様にプラットフォームそのものをご提供していく、といった考え方で進めている。プラットフォームという取り組みによって期待できる変化としては、お客様またはユースケースごとにご提供する価値の幅が広がるという部分と、お客様への価値の届け方として、製品や部品に二分するのではない新しい市場の開拓、ユースケースの開拓に繋がるよう準完成品のようなプラットフォームを通じて市場を開拓していく第三の方法として期待している。

(質問) テクノロジーソリューション事業の増収増益は、主にスマートフォン向けのデジタルペン事業が好調だったということか。

(回答) EMR (電磁誘導方式) テクノロジーが引っ張った形。スマートフォン向けに実装している技術だけではなく、E ペーパー向けの需要についても、中国で増えているリモート教育の専用端末等で伸びている。

(質問) 「Wacom Yuify」について、2024 年公開予定と聞いているが、来月(11 月 15 日・16 日)に開催される「コネクテッド・インク東京 2024」でその進捗が公開される予定なのか。

(回答) Wacom Yuify は、ワコムが開発しているクリエイターの著作権を守るためのサービスだが、デジタルで書いたイラストの下に人間の目には見えないマイクロマークを生成し、このマイクロマークによって作者と作品の関係性をしっかり証明するサービスとして、今夏、地域限定であるが、β版の公開を既に始めている。来月のコネクテッド・インク東京 2024 でも進捗をお知らせする予定。